

第3回川越市総合計画審議会 事前質問一覧（分野別の方向性関係）			資料2
	事前質問	対応	該当ページ
1	分野別の基本目標①について 親支援の視点が必要ではないか。こども・子育ての様々な課題には、親の孤立感や負担感・不安感が背景にある。地域が子育て家庭を支える施策がさらに必要であることを目標に明記したいと考える。 例えば、「地域で子育てを支え、こどもや若者が将来に希望をもって育つまち」のような親支援とこども支援の両方の視点を取り入れた目標を検討していただきたい。	基本目標については、「こどもまんなか」の考えをより明確化するために、こども・若者を中心にしたものとしています。 しかしながら、子育て家庭に対する支援や地域が子育て家庭を支えるという視点は、こども・若者が将来に希望をもって育つために重要であると考えており、「分野別の方向性」ではその考えを示しています。 また、今後、ご審議いただく予定の、基本計画における分野別計画においても、子育て家庭への支援、地域が子育てを支える施策を位置づける方向で検討したいと考えています。	4
2	分野別の方向性①について 2行目と4行目の「環境」は意味するところが違うのではないか。例えば、4行目は「体制」に変える。	御意見を踏まえ、文言の整理を行いたいと考えます。	4
3	分野別の方向性②について ・4行目と5行目に「より」が重なるのを避けるため4行目は削除する。 ・下から3行「地域住民や専門機関などの様々な主体が連携した包括的な支援体制の充実」の文章の意味が分かりにくい。		5
4	分野別の方向性③について ・下から3行目「地域の人々とともに郷土の『歴史を学び』伝統を…」でどうか 5とも重なると思うが、「江戸の100万人もの武家や庶民の暮らしを支えた川越は四方に延びる陸路と隅田川に通じる舟運により、コメや農産物、材木・織物などの集散地としての物流の拠点であり、また、城主が入れ替わるたびに、その菩提寺だけが残し、さらに元禄時代にかけて10ヶ寺近くの寺の移転と何百件もの武家屋敷の新築などにより町割りができた」というような小江戸川越の成り立ちを学ぶことが大切ではないか。	本市の歴史や、それぞれの地域の歴史を学び継承していくことは、文化財をはじめ郷土の伝統を守り伝えていくことために重要であると考えます。「地域の人々とともに郷土の伝統を守り伝えていく～」については、歴史を学ぶことだけではなく、文化財の地域ぐるみでの保存活用や保存技術の継承等さまざまな取組によって、地域全体を巻き込んで交流しながら、郷土の伝統を守り伝えていくという方向性を示したものです。文章の修正については検討したいと考えます。	6
5	分野別の方向性④について ・今後人口減少が進むと言いながら敢えて基本目標に「多くの」と入れることが必要なのか。無くてもよいのではないか。 ・2行目「このような」→「現在のような」 ・6～10行目「魅力的」「効率的」が2度ずつ使われているので他の言い回しにする	・「多くの」については、人口減少の中であっても、埼玉県西部地域の中心都市として、市民、来訪者など多くの人が集うまちであり続けるという考え方を示したものです。 ・その他表現の御指摘については、文言を整理し、よりわかりやすい表現を検討したいと考えます。	7

第3回川越市総合計画審議会 事前質問一覧（分野別の方向性関係）			資料2
	事前質問	対応	該当ページ
6	分野別の方向性⑤について ・2段落目、農業人口は減少していると思いますが、農業は発展していると言えるのか。 ・農業も商業も後継者不足で、一番街ではチェーン店がふえています。また、インバウンド、にぎわい優先で、食べ歩きも増え、上記のような川越の歴史を語れる案内人の育成や配置は減らされているとも聞く。これでは、どこかよその町と同じ風景になり、「新たな魅力創出」の陰に「川越本来の魅力」がかき消されてしまうのではなか。本当の魅力こそ市民にも観光客にも知ってほしい。	・ご指摘のとおり、農業については、農産物出荷額など様々な指標が減少傾向ではありますが、農業産出額が現在も県内で上位であるとともに、都市部でありながら一定規模の農地が残り、産業として営まれている状況から「発展」という表現としています。 ・本市の歴史や独自の魅力についてですが、本市が多くの来訪者でにぎわうことは、地域の活性化や交流人口の増加など、良い影響を及ぼすものと認識しております。 本市の歴史的・文化的遺産を生かした「川越本来の魅力」を継続して発信しつつ、「新たな魅力の創出」も図ってまいります。	8
7	分野別の方向性⑤について 川越市における観光振興の重要性は言うまでもないですが、観光には、単に観光客が訪れるだけではなく、その観光客を受け入れる担い手も重要です。また、川越、特に一番街周辺の観光の魅力は、単に歴史的建造物が残っているということに留まらず、そこが人々の居住・生活の場としても機能していることだと思われます。その一方で、こうした一番街周辺の地区においても人口減少が進んでおり、川越まつりをはじめとする伝統文化の継承が難しくなるなどの問題にもつながっています。そのため、一番街周辺では、観光振興を促進すると同時に、居住地としての特性を維持できるような思想を大事にしていきたいと考えます。そのためには、当然ながら、オーバーツーリズム対策が必須になります。 観光については、それを川越として振興する目的を今一度確認する必要があると思われます。地域経済に貢献することを目的とするならば、量的な拡大ではなく、1人あたりの消費額拡大を目指す一宿泊や滞在時間の延長一ことが重要ですし、観光を通じた地域住民の誇りの醸成や市民生活の向上であれば、観光振興によって得られた税収を具体的に市民が実感できる市民サービスへと還元していく仕組みを作ることが必要です。 外国人観光客の増加も今後見込まれるほか、外国人居住者に対する負の感情も持ちかねない状況（参考資料p.39）を鑑み、教育・文化・スポーツ分野では、国際交流に関する教育・啓発を期待します。	観光振興の目指す方向性等については、今後ご審議いただく予定である、基本計画における分野別計画で示したいと考えております。 分野別計画では、オーバーツーリズム対策などご指摘いただいた視点を踏まえ、検討したいと考えています。	8
8	分野別の方向性⑥について（参考資料35、36ページ） 満足度「ふつう」が58.3%と環境の現状についての危機感がない、あるいはあまり関心がないのではないのでしょうか。 P36「地球温暖化対策は必要だが何をしたらよいかわからない」が46.0%では、とても「小江戸かわごえ脱炭素宣言」が市民に浸透しているとは言えない。 市民一人一人が何ができるのかを提示し啓発していくことが必要。	ご指摘のとおり、脱炭素などの取組が市民に十分には浸透していない状況があると認識しています。市民の環境に対する関心を高め、市民一人ひとりが環境負荷の軽減につながる取組を実践できるよう、今後ご審議いただく予定である基本計画における分野別計画の中で方向性を示したいと考えています。	9

	事前質問	対応	該当ページ
9	分野別の方向性⑦について 外国籍住民が増え、今後も増加が見込まれる。外国籍住民との文化の違いなどを尊重しながら、ごみ出しや自治会活動など地域生活の決まり事を言語化し、共通の認識を深める必要がある。「国際交流・多文化共生に向けた学習活動の支援」などを通じ、外国人住民も地域社会の担い手として共に生きる多文化共生社会の位置付けるべきではないか。	ご指摘のとおり、外国籍市民が増加する中で、外国籍市民を含め誰もが地域の一員として、地域で支え合うことができるよう、多文化共生に向けた取組を進めることは重要であると考えます。 その旨は、「分野別の方向性」では、「誰もが互いを尊重し合いながら、地域での関係を築いていけるよう～」という文章で表現しています。 また、今後、ご審議いただく予定であります、基本計画における分野別計画において、多文化共生についての取組の方向性について示していきたいと考えています。	10
10	分野別の方向性⑧について ・多くの人や企業から選ばれる自治体というが、選ぶ前にそこに暮らしている住民がいる。住民の福祉向上のための自治体であるべきで、都市「イメージ」の向上を図る予算があるなら、サービスに回す方が良い。 ・経営資源の制約が厳しくなる、効果的な見直し、持続可能な運営・・・と、文章にちりばめられた言葉から、住民が活発に暮らせるのではなく、むしろ我慢するよう迫っているような圧力を感じる。	・市民サービスの充実を図ることは大前提として、都市イメージの向上についても、本市で現に暮らしている市民の福祉の向上につながるものと考えています。全国的な人口減少を背景に、自治体間の競争が激しくなる中で、居住地やビジネスを展開する場所として選ばれる市となることは、地域の活性化につなげるために重要であると考えています。 ・生産年齢人口が減少する中で、経営資源の制約が厳しくなることが見込まれています。そのような状況に向き合い、より効率的・効果的な行財政運営を行えるようにしていくことは、将来にわたって必要な市民サービスを提供し続けるために重要なことであると考えています。	11